

研究通信

1622

1957年3月刊

村落社会研究会
事務局

大阪市住吉区
大阪市大社会学
研

カカカカカカカカカカカ
カカカカカカカカカカ
カカカカカカカカカ
カカカカカカカカカカ
カカカカカカカカカカ

(仙台) 竹内利美

日本のムラの現地調査研究には、いくつかの流れがあるが、だいたい戰前にはそれそれが独自の領域に立てこもつていて、おたがいの間の交流といふものは、ほとんどなかつたといつてよい。研究者を著者から現地へおひき出した動機も、まちまちであり、問題にする場面もちがつていた。だから、現地研究の意図も、方法も当然ばらばらではあつたが、現地に残存する記録資料の探訪・収集を中心とする行き方と、直接生活現象の実際につれての觀察と聞き取りによつて、資料を構成する方針といふ二つの大きな傾向がおのずからそこにみられた。遺物・遺跡の発掘・調査を中心とする考古学調査、あるいは美術史の調査などは、だいたい前者に準ずるものとしてよほただ、渡辺先生の主宰されたアーチ・エクス・テアム（日本民俗文化研究所）が、生活文化の動的場面の研究の必要さを強調して、

民具（生活器具）の採集・整理に独自の方法をひらいたのは、むしろ後者の行き方に従うところであつた。この線はその実業史博物館の資料蒐集の上にも、貫かれている。もちろん、後者の行き方の先駆の一つは柳田先生のひられたフォクロアの方法である。庶民生活の歴史の解明における記録資料の無力さを痛感されて、いわゆる正統史学の方法的限界を強調し、地方辺境の村々の伝承資料の採集・集積の上に立つて、先生は独創的な見解を次々に展開されてきた。またそのため伝承資料の学的価値とその資料分類の方法を体系的に説かれ、さらに重出立証法その他独自の研究方法も提唱された。そして、事實はとんど全国に遍在する民俗研究家・郷土史家は、これに呼応して動き、あひだらしい伝承資料を提供した。さらには先生の指導下に真面目な民俗研究者が、組織的な全国調査を行なった（山村・農村調査）。近年刊行された「総合民俗誌」は、いわばその結果算とみてよいものであろう。しかしこうした現地

大部分も然りであり、多くは平常見聞してきたことを注文に応じて提供するという範囲を出なかつた。調査地点や調査対象（サンプル）のえらび方も同様であつた。山村・海村両調査は、齊一の調査基準（採集手段）によるべき。全国に數十ヶ所の調査地点をあらかじめ選定しておこなわれた。まさにその点でも定期的な仕事であつた。調査者もまた練達者そろいであつた。だが、その際現地資料の蒐集・構成について、どれだけその科学的な操作が問題にされたか、すくなくともその結果、民俗資料の蒐集・構成について、格段の技術的更新があこなわれたようには思はれない。それは一つには、フォクロア研究の目標によるところであろう。日本の民俗研究が対決しようとしたのは、むしろ正統史学の記録資料中心の研究方法であり、その目標も主としては民族文化の基底をなす庶民大衆の生活様式の変遷過程の解明であつたといえる。つまり現在の資料を扱いながら、その関心はむしろその過去的意味の究明であり、独自の方法によつて伝承資料を比較対照し、各類

五類の変遷系列を治定すること、その相性にできるだけ及すことを目としていた。現存の生活現象も、いわば「生活の古典」としての意味において問題にされたので、いさおい、古風な生活事実の伝存される地点と人に調査は局限された。すくなくとも、現実の問題ではなかつた。したがつて、統計的な

いし計量的方法が採用されたのも、サンプルに有意的な偏りの生じたのも、古来の間取裏表にはほとんど終始してきたのも、当然である。たるうし、その点を他の分野からかれこれ言うのは筋ちがいにちがいない。ただ日本のタラの研究に現地資料をこれだけひろく多量に提供したその業績が大きいだけに、それが関連する他の科学研究の分野に、そのまであまり利用に堪えないことが惜しまねるのである。なお、人文地理学、や農業經濟の現地研究も、終者の系列につながるもので、それ大きな足跡は残したが、これにはいたい資料蒐集の手本が、他から導られたり、ことに後者ではあらかじめかなり明確に領域が定つてゐた。たゞ、全国にわたる標的的調査は多く官庁の網を通じておこなわれたので、おのずからそこには限界があつた。そして、本問題研究者の踏査も、あたその及地點にはやはり限界があつた。そして、ここに現地資料の扱い方についての技術体系が問題にされる場面はあまりなかつたように思われる。前者の記録ないしは遺物・遺跡の資料的處理については、一応確立された資料吟味の方法体系があつたし、何よりそれらの資料は、すでに客観的なものとして存在するのであつたから、紛れもなくいい。現地調査は歴史研究のいわば、植物的資料として扱われ、近世末以後は別として、一概にそう大きな関心は払われなかつた。こうしたいろいろな流れの中で、基準的

を見地に立つムラの研究のあらんだ途は、あるて現地のものであり、若狭にみちたらのであつたといえる。技术・有資・喜多野・肩など農村社会研究の先端の方々のゆき方は、それぞれかなりずしも同じではなかつたが、とにかく以上のようないろいろの現地研究方法を参考し、その資料をできるかぎり利用ましたが、充分考慮するところへ到達しがたいものがあつた。そしてさらに、民族学・花人科学の示閑社会の研究法あるいはアメリカ農村社会の研究法などの新風を導入してようやく今日「精進分析」などと通称される現地のモノグラフィックな方法をつくり上げて行つた。そこでは記録資料をかならずしも排除したわけではなく、むしろできるだけそれを利用しようとしたが、廿裕都道の解説に対するには、おのずから限界があつたし、また、民俗学的現地資料の扱い方だけにも左屈しかねた。しかもまた、新しい現地資料の扱いについての技術はほとんど知られていかなかつたし、また仮に知つていても、組織的なダルーナーベイをおこなうだけの地圖は用意しておらないなかつたのである。これについての評論の余裕はないが、とにかくこうした方法によるいしつかのモノグラフィーが、これまで現地資料の検討を通じて、同族団・村組・自然村等々のいわば村研究の基礎的概念を構成されてきたわけであるが、何といつても、基準的資料の欠陥が、まだともいも

ところで、こんなことは現地調査に関する技術体系が、すでに常識と化するまで研究者の間にゆきわたり、しかも次々と新しい方法が紹介されてゆく今日の段階からすれば、おそらく大した意味もないかも知れない。日本のかの傳説書をひもといて、一応の概要を得ると、まずは袖台に来てはじめて気がつくとは、ことができるし、調査技術についてもまた同じである。しかしここに多少安易に述べる危険がないでもないと思うのはどうだろうか。たとへば袖台に来てはじめて気がつくとは、少々異なる話であるが、いままでいわゆる「東北」などと呼ばれた村落構造の既存構造の調査になつた調査資料をみると、それはかなり限られた特定の地点である。そしてその後に上山城や青森の辺境をとり、これと対照する意味で岡山や名古屋辺の平地農村をとつて見た結果が、一度ならずである。最も大切な、こうした行き方にも充分意味はある。だが、これで東北全般の村を云々するのはどうであろうか。めぼしい調査のおこなわれた場所を地図に入れてみると、かなり偏つてゐる。北上川流域や仙台周辺、石巻地方、阿武隈山地、あるいは奥羽山地の山といつ

たものはないとも。社会学的調査に関する

限り、まるでプランクである。とくに仙台

以南はひとり。

——おそらくこれは多くの調

かと思う。いかにも東北型らしい村を探る

よう例の手によるものか。そして、少々そ

うぞない地點を手がけてみると、既成概念の

農業村とは、どうもかなり色合がちがつた

もののように感じられるのである。長崎義は

この位にしたいが。とにかく調査地點一つを

とあげても、まだ日本のムラをさっぱり割

切るには、最後の異常なまでの現地研究の進

歩をもつてしても、手おちがすくならずあ

るようである。おそらく、他の地方でも同じ

ことであろう。何といつても日本村落の社会

的研究は、まだ年季の入れ方が浅い。こう

し偏りや空直な割切り方を組織の力では正

するが、われわれの村落社会研究会の一

②の使命であると思う。それには各種専門別分

野の提携・交流を活潑にする共通の場をひろ

げると同時に、一方では割合平常接觸の可能

性のある地域的な同志の連繋を密にしておく

が大切だと思う。一、これらで、最後の活潑

な現地調査の継続をもふくめて、既存の

眞實的調査資料の目録しらべをして、調査方法

の反省をしてみたらどうであろうか。それに

おこなうべきが会の下部機構として働けるように

おこなうことを念頭する。

共 同 研 究 課 題 と 会 員 の 動 向

調査課題

会員の動向

会員の動向

前号でお知らせした通り、本年度の課題については会員の実際行つてある研究をもとに

して決定することになりましたので、本号は

さきに会員から寄せられたアンケートを中心

総編してみました。粗見下さればわかる通り

会員の所在は全国各地にわたりて居り、研究

テーマもさまざまのバラエティを示しています。

も従つてどの研究開心にもびつたりする様

な共同課題を打出すことは仲々難しく、全般

的な動向のうちから共通の問題箇を幾つか選

択し逐年その重音を移して成果をあげて行く

よう致し方がないと思ひます。しかし研究会

は偏説當時の趣旨からしても出来る限り各専

門研究者の願意のない交渉を行はなければ

意味であります。また共同課題の報告会が中心

となつて年報として残つて行くのですから

、課題についての積極的な関心は研究会のベ

ローネーでもあると思ひます。具体的な共

通課題決定の順序としては、本号を参考とし

て各地区連絡委員

・竹内、關東・中野、關西・山本、九州、内

藤の諸氏——が中心になつて、いよいよ会

議の意見をまとめて報告して下さい。また連絡のとれない地方の方々は直接事務局宛て意見を伝えて頂いて最終的には関西側で決定したいと思います。専課題決定に伴う課題委員の選定依頼なども時間の都合上事務局が中心になつて遊び度いと思ひますので、この点についての意見をもあわせてお知らせ頂ければ幸いです。三月末日迄に意向が集まれば集約して四月発行予定の次号にその結果を報告できる予定です。

専課題要望については前号所掲の原空室氏の兼業農家や近隣村の案があり、内山政熙氏よりは今年は一つ「國家と農民」といつた大きな題目はどうかとの御意見も出て居ります。下記アンケートの現在の研究テーマを整理して見ますと、社会学民俗学地理学関係の中核は村落構造（家族・親族・同族・祭礼・親子分・階層・ヨンミニティ・共同体等を含む）や村落類型に重点があり、経済関係では過剩人口・地主制・開拓・山林關係・協同組合等があります。また労働や都市關係の研究者を中心に活動・兼業・都部關係・農村工業等の問題が取り上げられ、農村文化（マスコミ・職業取得機会・技術移入・規範）や村落史（誌）の研究も進められています。

調査の枠組・標準化尺度や態度測定法の技術等の問題として、本号を参考として、海外諸民族の村落生活にも関心が寄せられていました。この様に具体的な研究対象はさまざまに分化していまますから、比較的よくこれらのテーマを生かし得る課題としては、大会

提案をも含めて例えば「農（山・漁）村の近代化過程」とかその「行動過程」に焦点をおき、村落、農漁民、農漁業、文化等の専門的視角からの接近を交換させて見るのも一案かと思います。もつともこれは専務局というより筆者の私見にすぎません。アンケートによつて会員諸氏の平直な意図をより大分です。

専攻年度の大会は日本社会学会（八月北海道の予定）開催期とは切離し十月頃別途開催する事にならうかと思ひますが、当の問題と関連して報告の希望等も成るべく多数且つ頻に申出て頂くことが望ましいと思ひます。またアンケートに関する事は下記二点（質問）、よ

り詳説研究論文の御用紙が付されたが、該問題として見渡せさせて顶くことはなりました。

○共同調査の必要が提唱されて居る折からこれは是非実現のせいで、大会で論議されるべき問題の一つと存します。

（専務局 中 著 題）

名前 潟水（北海道立教員）（1）北海道における社会文化運動（大田作）村落の村落構造（上川郡知内村）農漁部落の村落構造（内市第一回「農業社会と農村社会構造」）（北海道農業研究会）（2）研究所の共同研究テーマとしての「在地問題」特に共同経営と本來の農村問題との關係の立場での経済学的偏向（未定）。

名前 左衛門（教育大）（1）郷土の会社組織と村の政治組織（村落組織と政治組織の問題）（2）村落共同体と家（村研年報3）（3）1と同じ（村落における祭祀組織と村落構造）（4）食野県教育部の一部（5）各地方の会員がも

（アンケートから）
西村三一年末に行つたアンケートの結果から要點を記録する。三一年一月末での回収は八〇（有効数二〇五）。記述の順序は、氏名・所屬機関の次に、（1）現在の研究テーマ・研究テーマの次に、（2）過去二年中の執筆著書・論文、（3）本年度の研究テーマ、（4）過去二年中の調査予定テーマ及び調査地、（5）其の他の記入のないものはその都合を省略してあります。

（専務局）

水生田清（米子西高）（3）未解放部落の歴史と社会（一部）（日本評論新社）・（2）津水集（1・12）（4）被村調査における標準化的尺度（度行動制約因子の研究）（金沢大法文学部論）（同県石川郡林中村）（3）被村調査に関する歳度の作製（5）部落に関する標準化的尺度の作製（未定）。

水生田清（米子西高）（3）未解放部落の歴史と社会（一部）（日本評論新社）・（2）津水集（1・12）（4）被村調査における標準化的尺度（度行動制約因子の研究）（金沢大法文学部論）（同県石川郡林中村）（3）被村調査に関する歳度の作製（5）部落に関する標準化的尺度の作製（未定）。

既に予定) (4) (1) かかることを同じく共通誤解が
成る構造の問題もだがサイコロシイやバーコ
スナリティ等上部構造の問題も取上げてほし
い。

内山政照 (農業終研) (1) 振村文化 (2) 農村文
化 (3) 農業普及事業を通して (静岡県 原郡
五島村) (4) 「土壤調査活動と農民の反応」 (農
山漁村文化協会 31・4) (4) 振村文
化 (農民とマス・コミュニケーション) (同上
上 (石川県金沢市 外))

* 江波繁 (北海道學芸大) (1) 北海道僻地の社
会改造に関する研究 (2) 同上 (北海道 振村大
輔) (3) 「同上」 (学芸大僻地教育研紀要 33
・6 予定) (4) 1の継続 (5) 同上。

* 小川徹 (法政大) (3) 「日本文化風土記」 (河
出書房 七巻) (4) 村落社会論

* 大内力 (東京大社研) (1) 農業協同組合論 (2)
農村財政 (長野県 科那 生町) (3) 日本資本
主義の成立 II (東大出版会) 「農民の分
解に関する一試論 (経済論集 22・3・4)

* 大庭等一 (大阪市大) (1) 著述改進論 (3) 「服
飾的行動の研究」 (市大人文研究 31・1) (6) 服
飾の変遷 (1) 1と同じ (6) 「概念の明確化」
ほしい。

大山彦一 (鹿児島大) (1) マキの研究 (2) 大
島・十島等の村落社会構造 (3) 島の村落社
會に於ける諸問題 (訪問報告) (鹿児島県大島部
分) (3) 「新潟社会学」

十鳥 3年年度日本社会学会大会報告) (3) 「
ロと其社会的基礎」 (西部社会学会研究通信
4) 「シニグと其社会的基礎」 (鹿児島大研
究紀要 (社会) 31・9) 「菅美大島の社会構
造 (人類科学)」「日本社会学への反省」 (人
林 海道歴紀念論文集 31・3) (4) 隅田坂島の牧
場制度とマキ共同体 (大島郡喜界島及与論
島の社会構造 (同上) (島根県隠岐島) 同上 (鹿
児島原大島郡喜界島及与論島) (5) 村研は築國
の美質を發揮しようと努力をしている
ようだが、喜界は「と/orてみたい位僻地には連絡が不備なように感じ
る」と同じ。この点に意識されたらしい。

森加藤正泰 (中央大) (1) フランス社会学 (3) 「
農業教育論」 (中央文学部紀要 31・3) (3) 1
と同じ

高橋生正男 (明治大) (1) 族系組合 (2) 美大島
(曾界島) 九 学会共同調査 (3) 「社会学構
造 (1)」 敬文堂 31・4) (4) 1と同じ

川村英二 (愛知大) (1) 村民・市民の伝統的
規範 (2) 上 (愛知県上津貝村及豊橋市) (3) 1
と別の規範 (1) 1と同じ (6) 「概念の明確化」
手

大西貞正 (福島大) (1) 村落共同体の構造。
近代社会におけるピュロタラシの構造 (2) 地
域社会における支配層の動向 (官城県白石市大
学) (3) 「戦後時社会の分析・産業労働」 (社
会学評論) 「小農をめぐる問題」 (思想

著) (東北文理図書出版社 31・4) 「社会科
学における普遍化的認識と個別化的認識」 (新
潟大学芸術部論集 1) 「旧大平村の合併事
情 (社会学研究 1) (4) 同上 (5) 地先源村の村落
制度 (農業水利権造と奥地改革) (採算地利用
権造論) (2) 農業水利権造 (宮城県喜多方市中田沼
用木) 木炭生産流域権造 (宮城県柴田郡川崎
町) (3) 「農業水利調査報告」 (農林省農林經
濟局 31・3) 「木炭流域権造調査報告」 (農
村省森林野原 31・5) 「水田單作地帶における
農業生産力と資本蓄積」 (日本銀行 31・9)
「新潟建設政策批判」 (農業及園芸 32・2)
「1のまとめ (農業水利) (新潟県中瀬原郡
龜田郷) 大阪府下湯池地帯) 採算地利用権
造 (宮城県下の河川湿地利用地帯) (3) 年度
共同調査について (3) の原元看提案の本
決の共同調査に賛成 (このため文部省耕種研
究所申請に総合研究を委嘱) 並に急手配されこと
を尋ねる 各支部単位に配分し共同チー
ムで調査し報告会を大会に合せて行う。

行動が同じやり方で尽力を乞う。

大菊地省三 (青森県厅) (1) 別になし

大北川隆吉 (東京大) (1) 日本の労働者 (階級
(2) 及び労働組合 (2) 農作物の展開 (新潟県十日
町市) 村落構造について (鹿児島県 美水良
部島) 近代技術と労働 (静岡県佐久間秋葉ダ
ム) (3) 「戦後時社会の分析・産業労働」 (社
会学評論) 「小農をめぐる問題」 (思想

造（愛知県一宮市）

六島田隆（東北大）(1)封建的村落共同体の構

造変化(2)同上(岩手県煙山村、長野県西谷

(3)東北農村家庭の構成(岩手県藤沢町)(3)

村落構造の歴史的分析（共著）（日本評論新

社31・3）「大籠における農家の経済関係」

（東北農村家庭の環境と構成3・3）(4)1と

同じ

木島崎 治（高崎大）(1)農家兼業の部落構造に

及ぼす影響について—特に職工農家の階級的

性格(2)職工農家と部落構造（群馬県岩槻村及

白川村の場合）（社会学研究）(4)社会構造

概念規定し特にコミュニティと地域社会の

概念を中心として(5)研究課題の研究遂行が當

めめりしている。その促進のために一義

的スキームの確立を痛感する。特に社会学

側の実証に役立つ概念規定の検討が必要では

ないか。

水嶋井徳太郎（東京教育大）(1)共同体の崩壊

過程に特に若者組の場合(2)若者組（伊豆半島

下河岸村）地主神と族制（伊豆三宅島及御藏

島）(3)「田園神明の成立」（教育大紀要・

1)「拔參の源流」（神道宗教）(4)1と同じ⑤通信の到着が悪い。四号ほどしかついていない

。

木島木栄太郎（北海道大）(1)都市社会学。

家族と社会形式(3)「都市社会学原理」（有斐閣・32)

木田中義郎（山口県小野田市高千帆町）(1)大経営開拓村の動態的総合調査(2)大経営開拓農村（山口市名田島）小都市近農村（小野田市高千帆）(4)1と同じ(5)同上(山口県阿武郡徳佐)(6)研究の位置にはなくとも今後一生ナマの農村社会に接して行きたい。研究調査の余暇に乏しく殘念であるが勤務を通じて

上充実されること。論点を明確にすること。
坂口一。(4)農村工業と労働者の生成過程(5)同上
新潟八洲次郎（東京教育大）(1)村落構造と
組織(2)江戸期の村落構造（長野県 訪都
見町）(4)1と同じ(5)明治の町村合併の歴
史社会学的研究を提携しない。江戸期の本
郷新田村、用水、入会地その他の組合村
などにみられる関係を中心として、「村」
を「村」としてとらえる動きが望ましい。
水池基之（慶應大）(1)地主制の研究、「
群衆動態調査」の分析(2)「地主制の研究」
（新潟 春予定）(4)「農村動態調査」の分析
「農業近代化の展開過程（フランス及ドイ
ツ）」。

木村茂（国際基督教大）(1)日本農業の停滞
をいたする再検討。日本農村における相
互作用(2)階級分解（長野県五加村）
（郡庄による量産の支還（三鷹市）(3)「日
本農業における階級区分の研究」（経済評論
5・3）「日本の農民分析論に関する二三の
問題」（農村研究5）「三鷹の農業」
（農村再生研究紀要）(4)1の続行
水谷藤和夫（愛知県立大）(1)農村における通
勤労者の組織とその運動。農家家族の生
活史的研究のため建設の地域社会に及ぼす影
響（愛知県北設楽郡富山村）、通勤労働者の
組織とその影響（愛知県碧海郡高岡村）(4)1
と同じ(5)高岡村の組織(6)近農村の社会構

こゝで留意している。今後何らかの機会に
発表できれば幸である。

山野崎昭夫(東北大) (1)漁村の村落構造(2)
町村合併(宮城県小牛田町) 漁村の構造(同)
吳安川町御浦 (2)産業構造と集落構造(3)早く
甚苟研究的な課題を打出して大会で成見の討
論が行えるようにしたい。

高野史男(愛知学芸大) (1)大都市周辺地帯
における都鄙關係(2)同上(名古屋市を中心と
する木海三県) 巨大工場説教による地域社会
の變質(愛知県豊母市一トヨタ自動車) (3)シ
ドの都市と農村(インド北部地方) (4)「大都
市交外論」(愛学大地理学報告8) 「地方都
市構造」(朝倉書店・集落地理講座3・3)
手を「インド紀行」(古今書院・地理3・
4) (4)と同じ(5)中都市の都市圏(愛知県一
帯) (6)地理の立場からすると現在社会は都
市と農村の關係が益々密接となり、研究テ
ーマとして両者を分離することは段々困難と
なれ、むしろ無意味と思われる。村研も
農村からみた都市化の問題を取上げることが
必需。

本内利美(東北大) (1)村落構造の研究—鹿
養造の推移に即応した変動過程の把握を中
心に東北の漁・山・農村について。年々農
田の研究(2)水田耕作村の研究(宮城県米沢
米山村) 近農村の変動(仙台市中田町) 計
約講の実態(宮城県喜多方市) (3)「漁業と村
落」(村研年報3) 「人と民俗」(河出社刊
業講座3) 「内線の社會的実態」(現代文庫)

講座2)「教師の社會的地位」(有斐閣31)

32)「定期保険經營と災害」(漁船保險中央
会3・1) (4)の構造特に三陸漁村研究の集
感(5)近農村の変動(仙台市中田町) 漁村の
社会変動(牡鹿半島) 契約群の実態(山形宮
城下) (6)地方別グレード間の連絡を密にし
会全体の運営が活発となるよう。共
同調査研究の実施。

大谷口澄夫(岡山大) (1)近世封建社会―備前
梅を中心とした(2)農村機械化の影響(岡山県
吉原・高松町新池) 近世新田村落構造(同県
尾道・周辺農村) (3)「備前藩改の研究」(備前
府太教育学部研究集録31・2) 「備前藩の
知行制度」(史学研究31・8) 「児島湾干拓
地における集落と其の経済」(長崎省への報
富江・3) (4)備前藩政の総合研究し特に幕末
維新期の動向(児島湾新田村落の構造) (5)2
大庭清一(山口大) (1)農村家族構成の変遷
(2)農家人口と家族構成(山口県佐波郡島地村
) (3)「農村の家庭生活」(山口女子短大研究
報告32・3) (4)農村家族構成(5)農村の家庭生
活(山口県美郷共和国)。

水中田寛(名古屋大) 村落共同体の崩壊過程
の研究(2)「年隊周辺地域調査(宮崎県高岡町他
(3)農民出産力の動向について(日本社會學の
研究集録31・3) (4)と同じ。
水中田寛(名古屋大) 村落共同体の崩壊過程
の研究(2)「佐久間ダム周辺地域調査(愛知県北設置県郡
高山村) (共同) (4)と同じ。
水中野卓(東京教育大) (2)「足尾銅山漁村の社會
學的研究」特に明治以後(京都府の商家
及びその同族團) 特に人別帳・町内文書の日
記の研究(2)「網漁業史」(石川県北太谷村) 商
家及びそれを単位とする各種集団(京都府東
山区及中京区) 下請工業と地域社會(三重市
) (3)「同族團研究の起始と課題」(日本社會
學の課題31・3) 「三重市における工業と展
開と構造」特に下請關係を中心として
国際基督教大・三重市社会學的研究(32予
定) (4)と同じ、同族團研究の起始と課題
の統編ト昭和18以後の展開について(52)の継
続(6)大会を一日とし年報の村落共同体の問
題を継続する内容を主としての討論に一日をもつてこのも

講座3)「農村の社會的地位」(有斐閣31) [三四四]

* 中島寅雄(國際基督教大) (1)農村都市化に
ついて(2)大都市外近隣の研究(東京都三鷹
市野崎) (3)「三鷹市の人口増加と人口構成」
(國際基督教大社研究紀要31・1) (4)と同
じ特に農村市街地の發展を中心として(5)北海
道農村市街地の社會構成(北海道農村)

水中島龍太郎(大阪市大) (1)村落の体制理論
(2)未解放部落の綜合調査(鳥取県江府町) (3)產
業の(農村)青年隊調査(高岡町他)
(3)農民出産力の動向について(日本社會學の
研究集録31・3) (4)と同じ。
水中田寛(名古屋大) 村落共同体の崩壊過程
の研究(2)「佐久間ダム周辺地域調査(愛知県北設置県郡
高山村) (共同) (4)と同じ。
水中野卓(東京教育大) (2)「足尾銅山漁村の社會
學的研究」特に明治以後(京都府の商家
及びその同族團) 特に人別帳・町内文書の日
記の研究(2)「網漁業史」(石川県北太谷村) 商
家及びそれを単位とする各種集団(京都府東
山区及中京区) 下請工業と地域社會(三重市
) (3)「同族團研究の起始と課題」(日本社會
學の課題31・3) 「三重市における工業と展
開と構造」特に下請關係を中心として
国際基督教大・三重市社会學的研究(32予
定) (4)と同じ、同族團研究の起始と課題
の統編ト昭和18以後の展開について(52)の継
続(6)大会を一日とし年報の村落共同体の問
題を継続する内容を主としての討論に一日をもつてこのも

（名）とすれば別記の村のモノグラフを一

材料として發表できると思ふ。

＊中野芳彦（新潟大）(1)共同体の豪民の社会的性質(2)豪家人口の変動と家族の構造(新潟県魚沼郡大和村・神戸村)共同体と家族

(5)と同じ(6)昨年度の如く狭く見定せず、個々は共同体の諸問題といった程度にしてしほうだらうか。

＊中村正夫（熊本大学）(1)村落構造(2)天草部落の構造とその歴史的展開(熊本県天草郡有明村・旧赤崎村を中心として数ヶ村)(3)徳川期天草における出島の記述(熊本教育学部紀要5・3予定)(4)1の継続。対島村落の研究(天草村落研究(熊本県天草郡有明村及天草村)対島村落(長崎県上眞郡峰村)(6)村町の基本態度としては更に問題を提起してくれて広く会員を包摂されることを望みます。

＊養井政太郎(山形大)(1)播村の成立過程(2)由田兵村の研究(福島宮城県下)豪族層敷村(巻沢庄内)在宅村落(山形県下)(3)「東北村落」(古今書院3・10)「在宅と村落」(山大紀要32・2)「東北の豪族村落」(地主雜誌32・2)「設村と集村」(河出書房3・3)(4)東北地方における社寺を中心とした成立せる村落の研究(5)豪族村落(山形県内)新田村落(弘前平野)散村の研究(岩手県下)(6)雑誌を出して下さるよう。又所々で井筒研究をしたら如何。

＊西川善介(徳川林政史研)(1)部落と林の形成(千葉県鴨川の歴史的研究)(2)部落と林の形成(千葉県鴨川の形成)(3)千葉県鴨川の形成

川(4)「共有林の歴史と実態」(林業総合研究)

濟3・6)「入会権の本質と様相」(歴史の部

・林野厅3・3)(4)1と同じ。

＊西田春彦(和歌山大)(1)態度測定と確率過程(2)教員の安定其の研究(3)職業に対する態度(和歌山県下全体)(3)潜在構造分析の一研究(和大学芸学部紀要・教育科学5)「教員の職業に対する態度の研究」(教育研究季報3・9)(4)1と同じ(5)学生生活の実態(和大学生)

＊一宮哲雄(高知短大)(1)民族組織と村落の發展過程(2)切畠經營地帶における村落共同体と民間慣行(高知市高岡郡仁定村)(3)「切畠經營地帶の社會經濟構造」(高知大学研究紀要5)「高知県の社会」(共著)・(高知市民団書館3・2)(4)村落の發展過程に関するモノグラフ。

＊森尾宣雄(東京教育大)(1)豪家人口。新規参入と豪民の意識と行動(2)技術導入と農民の意識行動(長野県)(3)「農民の意識と行動」(平凡社3・3予定)(4)技術導入と農局の意識と行動(5)寺門の異なる立場から自由に語答える(6)気が与えられることが望ましい。

＊福武直(東京大)(1)村落構造の類型(2)村落構造の研究(教ヶ所)(3)「現代日本における村落共同体の存在形態」(村耕年報3)「部落調査をめぐる問題点」(部落31・3)(4)村落の構造的類型の再検討(5)近隣村の構造へ

＊神奈川県川崎市内)村落構造の研究(教ヶ所)(6)麻木三千人(東北大)(1)日本農村における漁業形態変遷と村落構造(2)カキ養殖と出稼漁夫の村の社会構造(宮城県牡鹿半島五部浦及

＊県水後(東北大)(1)日本における村落のアーバニゼーションの研究(2)漁村青年の生活態

落構造と家族制度(同県西山村)4)「本家分家・親分子分・類縁まき」(山梨大学芸学部郷土研究会32・1)(4)同族風。家族の構造の機能(6)来年度の共通テーマを早くきめるよ

うに。

＊浜島助(東京学芸大)(1)日本资本主义と村落構造(2)運動農家を中心として(3)同上(神奈川足柄上郡南足柄町)4)村落地域における企業内部の労働組織と組合運動(5)同上(神奈川県及福島県下)

＊原宏(福岡県折尾高)(1)兼業農家の社会学的研究(2)「兼業農家のアプローチの試み」(社会学評論27)(4)兼業農業家族の類型化(5)通勤農民の調査(福岡県遠賀郡各村)(6)アライ

ンを一定した全国調査をここ二年か三年の後実施したい。テーマは自から出でてくると思ふ。

＊福武直(東京大)(1)村落構造の類型(2)村落構造の研究(教ヶ所)(3)「現代日本における村落共同体の存在形態」(村耕年報3)「部落調査をめぐる問題点」(部落31・3)(4)村落の構造的類型の再検討(5)近隣村の構造へ

＊神奈川県川崎市内)村落構造の研究(教ヶ所)(6)麻木三千人(東北大)(1)日本農村における漁業形態変遷と村落構造(2)カキ養殖と出稼漁夫の村の社会構造(宮城県牡鹿半島五部浦及

＊県水後(東北大)(1)日本における村落のアーバニゼーションの研究(2)漁村青年の生活態

度(宮城県仙台市四ヶ浜)近村の村落構造
の分析(仙台市中田町)(4)近村の村落構造
の分析と人間形成の研究(5)同上(仙台市近
村)

森野誠之(島根県大山和牛流通経済に関する調査)(2)新舊市場及畜産農業の実態(島根岡山鳥根県)(3)「農村調査の技術と方法」(共著)(地球出版社3・7)和牛生産地における都畜連の実態と問題点(農業協同組合3・2)(街1と同じ)(5)2と同じ(兵庫及島根県)(6)農村における各種の組織団体を社会科学の各部門から研究するのも面白いと思ふ。研究会の在り方は大変よいが、(毎年アーチに限らず自由報告)(3分位)もテ

マと報告者を選んで附加えては如何。

茨原治郎(東京大)(1)村落共同体と換金の機能的分析(同上)(山梨県三川村長野県高田町山梨県白洲町高知県)美木島の村落構造(鹿児島県大島郡泊町西原)產業開發青年隊と地域社会(山形県産業開發隊立谷川キャンプ)(3)「砂田・村落構造の研究・書評」(社会学評論25)

「旧意識の社会的根柢」(現代の教育社会学・國土社・予定)(4)日本における村落共同体の存在形(5)同上(内年度の統計と島根県名)

手取村(奈川県)

森村安一(東京学芸大)(1)多摩川流域の山村と青梅林業の歴史(2)近世山村と平地村との分離(東京都青梅市)(3)「近世多摩川谷の耕作と御林」(東京学芸大研究報告1・1)

(4)1と同じ(5)2と同じ(6)年報の「助向」について。最近の地理学の分野での研究分担は最も亘り立場も種々ある過剰人口、出稼

など夫々専門的立場を守つてあり農務も同様である。種々の視点から動向の孰年者の選定は特に注意して偏りしないようにし、眞實の姿を紹介してほしい。このことは地理学者のみでないと思うから一考されたい。

吉田清彦(和歌山大)(1)農業資本(2)同上(淡路及大阪近)(3)吉野の山林地主と林業経営(和大經濟論31・7)「未解放部落」(在著)(潮文社31・6)(4)農村過剰人口の問題

吉野常一(日本農民文化研)(1)山村の社会構造と土地利用(2)山村の社会構造(愛知県北山簡村)(3)「開拓の歩み」(日本の地理31・2)(4)「山村經濟寒帶調查書」(秋田県上小阿仁)(5)「山村經濟寒帶調查」(宮城県栗町)(3)「開拓の歩み」(日本の地理31・2)(6)「山村經濟寒帶調查書」(千葉県川崎市)(3)「開拓の歩み」(日本の地理31・2)

吉野常一(日本農民文化研)(1)山村の社会構造と土地利用(2)山村の社会構造(愛知県北山簡村)(3)「開拓の歩み」(日本の地理31・2)(4)「山村經濟寒帶調查書」(秋田県上小阿仁)(5)「山村經濟寒帶調查」(宮城県栗町)(3)「開拓の歩み」(日本の地理31・2)(6)「山村經濟寒帶調查書」(千葉県川崎市)(3)「開拓の歩み」(日本の地理31・2)

特に漁村 アフリカにおける部族國家及び村落共同体(2)日本漁村の社会構造(愛知県美半島)(3)「西アフリカにおける社会運動」(愛知大文學論22)(4)「西アフリカ農耕民における土地慣習」(同上1)「西アフリカの研究

1社会構造を中心に」(愛大綜合郷土研究所3)「アフリカにおける村落共同体の構造漁村の調査(5)漁村の構造1特に漁業構・社会構造・年令組織(6)村落社会の研究は何も日本

・欧米に限らずインド・アフリカ・南米等との比較研究も必要である。年報も漁村の問題民族の村落社会が全然とりあげられていない。

吉野清美(東京教育大)(1)村落社会における真宗寺院の組織組織と教團組織(2)北海道移住民の宗教(北海道江別市篠津)大都市近郊の研究(東京三鷹市)農業機械化の社会的効果(岡山県吉備郡高松町)(3)「アメリカ農村社会学におけるコミュニティ論の展開」(村研年報3)「飛彈の毛坊王」(封建社会における真宗教团の展開32・1予定)「北海道樺太兵村の展開と社会構造」(東京教大文学部紀要32・3予定)「学問期の学校組織」(山鹿博士遺稿記念論文集3・3予定)(4)1と同じ(5)同上(福井県坂井郡三国町、栃木県芳賀郡二宮町、三重県津市一身田町)

水矢木明夫(東北大)(1)日本資本主義の成立と村落構造(2)村落構造の分析(岩手県奥州市・長野県岡谷市)(3)「村落構造の歴史的分析

じのと同じ。

水谷島武（北海道大）山開拓不擇地風の問題
研究の向上（北海道石狩当別青山）(4)「農業
の発展と本道農業経営の反省」(北海道農業
中央会3・1)「北海道の自然条件と關係せ
る諸外国における開拓方式特にその發展につ
いて」(北海道開拓局3・9)山バレイット

・アームの調査研究の向上（北海道農業開拓
課）

市田敏道（弘前大）山ガリの社会的意義
農村における社会成長（社会学論）(4)と同じ

市山宣周平（山梨大）山家地主の社會的意義
の実的研究(近交地主の豪族地主)（山梨大
宣部昭和村）新制以下の家族の変遷（東
京下奥多摩町大井坂）(4)山アベーと群
衆(3)「経済と生活生産」(河出・現代家庭誌
度3)「郷族並に親族類似關係の二類型」(一
山梨大学農芸学部研究報告7)「イギリスにお
ける老人生活と相撲」(老社研究予定)

(4)「民族學論史」地方都市の豪族地主(甲府
市新制以下)の豪族の興盛(大日本研究)の机
上における努力と共に二つ位の地主をあげ
筋肉に古く研究を実施してみてはいかが。
山本喜(大日本大)山吉澤京都部の研究。

近藤村の研究(未經及部落の社会構造(島
聚日野郡江戸町)近交地主の都市化(大阪
府内郡)、(4)「未満及部落の家族

市(市大人文)3)、(4)「社会的成長の研究

〔新題〕(日本社会学の新題3・3) (4)と

同じく近交地主の都市化(大阪市西区一ヶ所)
市山本謙三(九州大) (4)社会階層論(英國

高村再建計画の若狭町村合併(浮羽郡浮
羽町・共同研究) (4)と同じ。

市村忠夫(山梨大) (4)甲府盆地におけるア
ジア栽培地帯の研究(山梨県農業政策の労働

者調査) (4)ドク地帶調査(勝沼附近) 製糸工
場者アンケート(片倉・崎工場)、組合

工場、圧縫工場) (4)「大都市近村に
ける土地所有の変動」(山梨大学芸術部研
究会3・1) (4)と同じの外、甲府盆地

山地帯における村落社会調査(4)の外同上
(増補)。

桑村昭二(国際基督教大) (4)農村共同体
の分析(宝塚市総合研究の一環として関西
学院社会学第2号3・4)、「富山県東西被

合併と教育(2)三縣の教育(東京二三木市)
(3)「三縣の教育」(同人)、(4)農

業共同体(相続法)、(4)分析をす。(古墳図、
考古学、(4)分析をす。古墳図、考古学、(4)分析をす。

市山正三(福岡大) (4)農村の産業人類学(2)
農村の人口問題(子葉県九十九里浜貝町)
山浦等(福岡) (4)日本住民の階層分
化(4)分割地所有住民の歴史的類型(5)農家の
問題と「いえ」(三重県三和町) (4)農前地主
にみる長尾屋の変遷(4)「農業結合研究」
「(4)上の農業問題の統計的「いえ」の分析
と農地の問題としてではなく、歴史的
な立場の問題としてではなく、歴史的
社会制度の問題として、(4)経済学と社会学と
の両面から光をあてるよう問題提起をして
ほしい。戰前戰後における農民の性格變化
などをあげてほしい。

〔新題〕(日本社会学の新題3・3) (4)と
同じく近交地主の都市化(大阪市西区一ヶ所)
市山本謙三(九州大) (4)社会階層論(英國
の封鎖と開放性)(京大文学部五十周年記
念論集3・1) (4)村落の封鎖性(村落の封鎖
研究(未定)) (4)当面の重要な問題と共に古墳
的研究も大いに深めてほしい。

水渡辺久雄(大阪市立大学) (4)地域構造の分
析(2)富山県南波郡下の町村(兵庫県宝塚
市) (4)と同じ、「宝塚市住宅地区
の分析」(宝塚市総合研究の一環として関西
学院社会学第2号3・4)、「富山県東西被

新人会員(昭和三二年一月以降)紹介	
渡辺久雄	歴史(民俗)学 大阪市立大学文
芦屋市三木町二二三末代密方	平山敏治郎 歴史(民俗)学 大阪市立
大學文	京都市左京区下鴨西半木町四五

年報に関する報告とお願ひ

◎ 年報第四号（本秋刊行予定）に所収の各
講研究動向欄（昭和三十一年四月より同三二
年三月まで）の執筆は次の方々に依頼いたし
ました

地理学 渡辺久雄

経済学 島田 隆

歴史学 大石慎一郎

法律学 咲 孝一

社会学 塚本哲人

◎ 會社金學相談の塚本氏（北辰達六氏）より文
件科が入手もれの可読性もあるので、同
誌大学紀要などに所収の論文の抜刷があれ
ば直捷お送り頂ければ有難いとの申出がやり
ました。
該學問係の会員諸氏の御協力をお願いする
事です。

◎ 昨秋発行の年報「村落共同体の構造分析」
は幸い好評を博している様で二三の書評で
取り上げられていますが、本会としてこそ
の成果に対する反省検討や今後の研究を深め
る方開づけが必要なのではないでしょうか。
それで次の通り（四月施行）には出来るだけ
多く、全般的又は特定の論文についての会員の
批判、感想等をのせて貰います。 三月

末日締切二〇〇字語五頁一〇一程度のものを

事務局宛お寄せ下さい。尙同書御註文の方

記して申込んで下さい。（四〇円のところ特

内藤元輔 宮本常一 矢島 武 谷口澄夫
管野 正 桜田勝徳 阿部政太郎 米村昭
二 中島寅雄 島田 隆 池田義裕

◎三十年度分

小林 康 江沢 雅

◎三十年度分

細野誠之

生田 清 大内 力 西田泰彦

アンケートと会員の件
さきにアンケートをお送りした際、ご信及
び会費二年以上未納のお方は名簿上で整理さ
せて顶く旨御伝え致しましたが、本号に限
り一度もとの会員の範囲（二〇五名）に御送
りいたします。右に該当のお方で引続き会
員として加わつて頂く方は是非アンケートの
返信及び会費を事務局宛御送り下さい。尚
奪は若干餘部をみてありますので入会をお
受け下さい。右に該当のお方は部数をお知ら
せ下さい。また住所その他の変更で通信が
居てない方々もあるかと思ひますので、
会員でお気附きの点はお知らせ下さい。幸

いアンケートと共に会費も順調に集まりま
ります。なお通信により手違いがわかり自
下連絡して居る方もありますので、今後共
に誤れなどあれば御連絡下さい。

（昭和三十一年一月以降会費納入者）（二月二十
日現在）
三十一年度分